◆2021 年 12 月第 1 週の礼拝説教

■日時：2021 年 12 月 5 日（日）

■場所：立川教会

■説教題：「キリスト・イエスにおいて一つ」

■聖書：新約ガラテヤの信徒への手紙 3：23－29（p346）

■讃美歌：231「久しく待ちにし」252「羊はねむれり」

お早うございます。

待降節、第 2 主日を迎え、ロウソクの灯が 2 本灯りました。

何も見えない真っ暗闇の中に置かれた時、私たちの心は不安に襲われます。

そして、光を見出した時、不安は消え去ります。

まして、何かの心配事で押し潰されそうな時に、解決の希望の光が見えた時、その喜びはどれほど大きいでしょうか？

光、それは、希望であり、安らぎであり、慰めです。

旧約の時代、人々は暗黒の中にありました。

何百年にもわたって、暗闇の中に置かれていました。

偶像礼拝に陥ったイスラエルの民は、真実なる神様のもとに立ち帰れと言う預言者の声に聞き従おうとはしませんでした。その結果、BC722 年、北イスラエル王国は滅亡し、さらい BC586 年、南ユダ王国も滅び、イスラエル民族は亡国の民として世界中に散らされて

行くのです。

しかし、神様の裁きの下にあって、人々は救い主の到来を待つようになりました。何年も、何十年も、何百年にもわたって、待ち続けました。イスラエルの罪を赦し、罪の縄目から人々を解き放つ救い主の誕生を待ち焦がれました。

私たちの目の前にあるロウソクは、イエス様の誕生を待つことを意味しています。1 週間に 1 本ずつ灯り、4 週間で全てのロウソクが灯ります。そして、主イエス・キリストの誕

生の時を迎えます。今は、救い主の到来を待ち続けるイスラエルの民の想いに、私たちの心を重ねたいと思います。

それでは、今日与えられた聖書の御言葉に耳を傾けましょう。

ガラテヤの信徒への手紙第 3 章 23 節から 29 節です。

２３：信仰が現れる前には、わたしたちは律法の下で監視され、この信仰が啓示されるようになるまで閉じ込められていました。

シナイ山において、神様からモーセに与えられた律法は 10 の数でした。十戒と呼ばれるもので、申命記第 5 章 6 節から記されています。新共同訳聖書 289 頁です。ご一緒に一の戒めから十の戒めまでを読んでみたいと思います。ただ読むのではなく、人生を振り返り、この戒めを守ることが出来たかどうか、そして今なお出来ているかどうかを自らに問いながら、読んでみたいと思います。

１．　あなたには、わたしをおいてほかに神があってはならない。

私の場合、両親ともにキリスト者であったことから、他の神々を知る機会はありませんでした。しかし、日本では多数の家が仏教あるいは神道の系列下にあり、風俗・習慣として、各家には仏壇や神棚があったと思います。

２．　あなたはいかなる像も造ってはならない。

中学校の教員時代、美術を担当していた同僚が、依頼を受けてお地蔵さんを彫刻していました。偶像の一つでした。

３．　あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。

イスラエル民族は、この掟を厳格に守った結果、神様の名を忘れてしまいます。モーセに示された神様の名は、出エジプト記第 3 章 14 節の「わたしはあるという者」です。新共同訳聖書 97 頁ですが、ヘブライ語のこの言葉から YHWH を Yahweh と呼ぶのが妥当とされ、これが神様の名となりました。

４．　安息日を守ってこれを聖別せよ。

私の場合ですが、これまでの人生の中で礼拝を守らなかった日は、青年時代のある一時期と教員時代の公務を除いてはありませんでした。生活の一部となっているからだと思います。

以上、第 1 の戒めから第 4 の戒めまでは、自分と神様との関わりについてのものです。そして、第 5 から最後までの 6 つの戒めは、私たち人間同士の関わりの在り方を命じたものです。

５．　あなたの父母を敬え。

６．　殺してはならない。

７．　姦淫してはならない。

８．　盗んではならない。

９．　隣人に対して偽証してはならない。

10．あなたの隣人の妻を欲してはならない。

この第 5 から第 10 に至る 6 つの戒めに共通していることがあります。それは、隣人を傷つけることです。実際にそのような行動を起こさずとも、心の中の思いを見れば、これらの教えを全て守れる「義人はいない。一人もいない」のです。さらに、わずか 10 の戒めすら守り得ないのに、その後、幾つもの戒めが増し加わり、遂に 613 もの戒律に膨れ上がりました。

イスラエルの民は、必死になってこの戒め、即ち律法を守り、神様から義とされたいと願いました。戒めを守れずに破った時は、同じ戒めで定められた償いの戒めを行いました。つまり、生活の全ては、律法から始まり、律法に終わる、律法にがんじがらめになっていたのです。その結果、それを守ることによって神様からの祝福を受けるはずであった戒めは、全く逆の、守れぬが故に、罪の自覚を生み出すものとなってしまいました。

次の 24 節の「キリストのもとへ導く養育係」とは、律法が果たした役割、即ち、守ることが出来ず、罪の自覚が生まれるだけの律法からは救いは得られない。ただキリスト信じる信仰によってのみ救われることを教える役割を担ったことを指しています。

まさに、24 節の、

２４：こうして律法は、わたしたちをキリストのもとへ導く養育係となったのです。わたしたちが信仰によって義とされるためです。

律法に縛られた生活に救いはありません。

律法を守ることの出来ない弱さを覚えた者を待っているのは、自らへの失望です。

ユダヤ社会に張り巡らされ、全生活を規定する律法でした。長老、律法学者、ファリサイ派の人々は、義を追い求める人々の必死の思いを利用し、偽善なる歩みを続けました。

しかし、真実の伴わない形だけの律法主義に堕した長老、律法学者、ファリサイ派の人々に対し、イエス様は真っ向からその偽善を攻撃しました。マタイによる福音書第 23 章（p45）に記されている息を飲むような激しさで、イエス様は彼らを攻撃したのです。

1 節から 12 節、少し飛ばして 25 節から 28 節を続けて読みます。

１：それから、イエスは群衆と弟子たちにお話しになった。

２：「律法学者たちやファリサイ派の人々は、モーセの座に着いている。

３：だから、彼らが言うことは、すべて行い、また守りなさい。しかし、彼らの行いは、見倣ってはならない。言うだけで、実行しないからである。

４：彼らは背負いきれない重荷をまとめ、人の肩に載せるが、自分ではそれを動かすために、指一本貸そうともしない。

５：そのすることは、すべて人に見せるためである。聖句の入った小箱を大きくしたり、衣服の房を長くしたりする。

６：宴会では上座、会堂では上席に座ることを好み、

７：また、広場で挨拶されたり、「先生」と呼ばれたりすることを好む。

８：だが、あなたがたは「先生」と呼ばれてはならない。あなたがたの師は一人だけで、あとは皆兄弟なのだ。

９：また、地上の者を『父』と呼んではならない。あなたがたの父は天の父おひとりだけだ。

10：『教師』と呼ばれてもいけない。あなたがたの教師はキリスト一人だけである。

11：あなたがたのうちで一番偉い人は、仕える者になりなさい。

12：だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。

そして、次の頁の、25 節から 28 節です。

25：律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。杯や皿の外側はきれいにするが、内側は強欲と放縦で満ちているからだ。

26：ものの見えないファリサイ派の人々、まず、杯の内側をきれいにせよ。そうすれば、外側もきれいになる。

27：律法学者たちとファリサイ派の人々、あなたたち偽善者は不幸だ。白く塗った墓に似ているからだ。外側は美しく見えるが、内側は死者の骨やあらゆる汚れで満ちている。

28：このようにあなたたちも、外側は人に正しいように見えながら、内側は偽善と不法で満ちている。

私たちの中で、イエス様のこの厳しい批判から免れる人はいるでしょうか？

しかし、律法によって知らされた罪の縄目から私たちは解き放たれました。

私たちの全ての罪は、イエス様を救い主として信じる信仰によって贖われたのです。

まさに、25 節、

２５：しかし、信仰（＝救い主）が現れたので、もはや、わたしたちはこのような養育係（＝律法）の下にはいません。

イエス様を救い主として信じる信仰さえあれば、

どんなに貧しくても、わずか 2 コドラントしか捧げることが出来なくても、

安息日や断食を守ることの出来ない生活を強いられても、

神殿に上って犠牲の供え物を捧げることが出来なくても、

ただ、主イエス・キリストの十字架を見上げ、十字架の苦しみが自分のためであることを信じ、死を打ち破る甦りを信じる時、26、27 節、

２６：あなたがたは皆、信仰により、キリスト・イエスに結ばれて神の子なのです。（神の子とされるのです。）

２７：洗礼を受けてキリストに結ばれたあなたがたは皆、キリストを着ているからです。

そして、キリストを着ている私たちは、28 節、

２８：そこではもはや、ユダヤ人もギリシア人もなく、奴隷も自由な身分の者もなく、男も女もありません。あなたがたは皆、キリスト・イエスにおいて一つだからです。

キリスト・イエスにおいて一つ。それは、この立川教会の交わりに対する使徒パウロの証言です。

最後の 29 節です。

２９：あなたがたは、もしキリストのものだとするなら、とりもなおさず、アブラハムの子孫であり、約束による相続人です。

神様がアブラハムに対してなされた約束とは、私たちが神のものである限り、祝福は絶えることがないことです。

待降節第 2 主日を迎えた私たちは皆、「キリストを着ている」者であり、「キリスト・イエスにおいて一つ」であることを感謝し、この教会の交わりに生きる者でありたいと思います。

祈りましょう。